

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

智頭町長 金 兒 英 夫

市町村名 (市町村コード)	智頭町 (313289)
地域名 (地域内農業集落名)	天木地区 (天木集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年2月27日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。  
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

## 1 地域における農業の将来の在り方

## (1) 地域農業の現状及び課題

令和4年5月実施の農業・農地に関するアンケート調査によると、当地区の農業者の平均年齢は74.6歳であり、町平均の70.1歳と比べて高くなっているが、現在は比較的耕作管理ができており、後継者のめどが立っている農業者も多いことから、当面は現状を維持したいとの意向が多い。  
一方で、畦畔の草刈り等の作業に負担を感じたり、後継者がいないことや機械の更新が負担になることから、機械が壊れたら農業をやめるという声も挙がっており、話し合いを継続しながら、地域全体で農地を守っていく必要がある。

## (2) 地域における農業の将来の在り方

補助事業を活用し、機械の共同利用や、集落単位での営農について検討する。  
草刈り等の作業負担を軽減するための方策を検討する。

## 2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

## (1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	7.2 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	6.2 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

## (2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

智頭町大字埴師(天木集落)地内で、小規模な畑を除き、現在耕作が行われている比較的条件の良い農用地とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
現状では、個々で維持していく意向が多いため、無理に集積・集約しない。
(2)農地中間管理機構の活用方針
出して手があっても受け手がいないため、状況にあわせて検討する。
(3)基盤整備事業への取組方針
可能であれば検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
特産品の開発などにより、幅広く担い手の確保を検討する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
ドローンによる防除など、活用できる事業者があれば検討する。

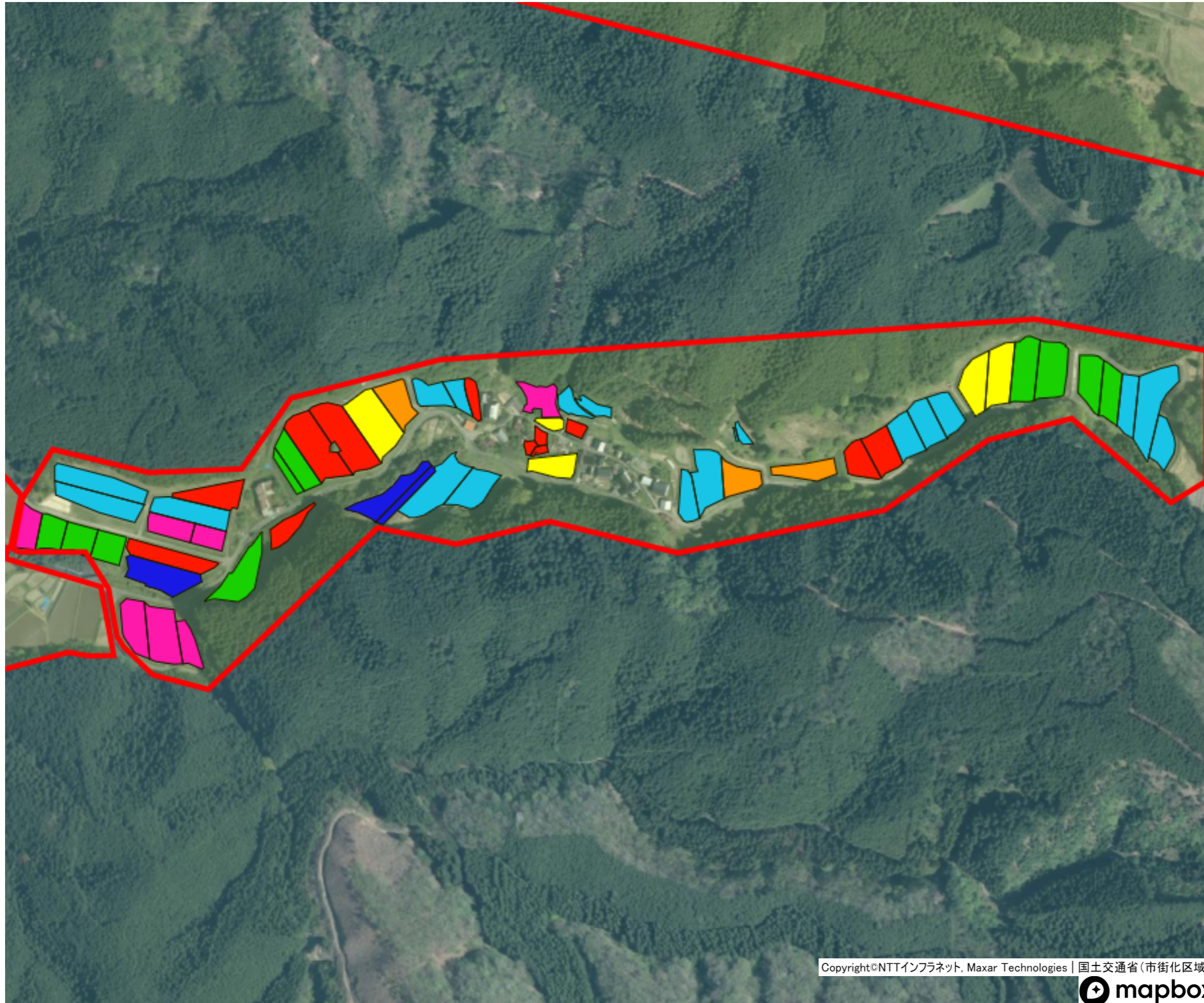
以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

--

# 天木地区目標地図



目標地図(確定)

- A
- B
- C
- D
- E
- F
- G